

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4570600249		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひなたぼっこ		
所在地	宮崎県日向市大字富高343-1 (電話0982-54-1646)		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年12月11日	評価確定日	平成22年1月22日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改修型で、まさに今までの生活様式を変えることなく、住み慣れたわが家のように生活できるホームである。「まちの井戸端・ひなたぼっこ」を目標に掲げ、地域との関係作りから早くから取り組んでおり、地域に根ざし、協力体制もできている。管理者、職員は、利用者へ寄り添うケアを心掛けており、温もりのある関係が利用者の穏やかな笑顔からうかがい知ることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 飲食物低下者に対し、食事、水分摂取の把握において、個別支援チェックの方法が課題になっていたが、その後の取り組みがきちんとなされていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者が素案を作り、全職員で意見を出し検討した上で作成されており、それぞれが気づきやサービスの質の向上へ結びつける良い機会として生かしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） ホームの現状、課題、外部評価についての報告のほか、テーマを決めて討議し、意見をもらっている。出された意見に対しては実践に結びつける努力をしている。避難訓練や、防災訓練時の拡声器利用についても、運営推進会議時に出た意見を実践に生かしたものである。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の来訪時や、電話で連絡をする際など機会をとらえ、意見、要望を聞きだす努力をしている。職員が担当制になっており、細かいところまで気を配り、出された意見、要望に対してはすぐに検討する体制が出来ている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会への加入はもとより、地域の生き生きサロンへの参加及び場所の提供、日常の近隣の方々へのあいさつなど、常に地域住民とのふれあいに心掛けている。

【情報提供票より】（平成21年11月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和(平成)8年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤3人, 非常勤4人,	常勤換算5.6人

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

（4）利用者の概要(平成21年11月20日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名	
要介護1	1	要介護2	2			
要介護3	1	要介護4	1			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	81歳	最低	72歳	最高	93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	和田病院、千代田病院、鮫島病院
---------	-----------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「まちの井戸端・ひなたぼっこ」を目標に掲げ、地域密着型サービスとしてホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、常に理念を念頭に置いて話し合い、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域行事や生き生きサロンへの参加及び場所の提供等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義を理解し、サービスの見直しや、家族、地域とのかわり等、気づきや、見直しの良い機会ととらえ活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの現状や、評価への取り組み等を報告するとともに、その時々々のテーマを決めて話し合っている。会議メンバーから意見等をもらい、そこでの意見をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居にあたってのことを相談したり、地域行事への参加などの事業所の取り組みを伝えるホーム便りを届ける等、市の担当者との行き来する機会をつくっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、担当職員が個々へのメッセージを添え、日々の様子を知らせている。来訪時には出納帳の確認の外、意見、要望を聞きだす努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に要望等をうかがう努力をしている。言いにくい場合を考慮し、第三者に相談するための窓口等を掲示している。出された意見等はミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員による支援を心掛けており、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。1名退職者があったが、利用者と同様なじみの職員を法人から異動させることで、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には参加できる体制が出来ている。法人内研修には勤務外の職員が参加しており、月1回の会議時に研修を受けた職員が報告している。また、リスクマネジメントの勉強会を定期的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日向地区のグループホーム管理者会に参加し、交流を兼ねた勉強会をしている。県北グループホーム連絡協議会に管理者以外の職員も参加し、交流を持ちながら質の向上に努めている。他のグループホームの見学も予定している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	なじみながらのサービス利用のため待機者との交流会を企画し、職員や他の利用者、ホームの雰囲気になじめるよう家族とも相談しながら工夫している。また、事前の面接やアンケートで生活歴や環境の把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に過ごし支えあう関係づくりが日々の生活の中で築かれており、思いやりの心や、優しさを利用者から教えられることがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が訴えや要望に耳を傾けながら把握に努めている。困難な場合は、利用者の状態、家族の思い等を聴き検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き、要望に沿ったケアができるように、職員と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の会議で、個別に心身の状態を話し合い、変化が生じた場合には、家族、主治医の話を聞き現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、通院や外出の支援を行っている。ふるさと巡り、地域の生き生きサロン、法人内の行事への参加支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望により、それぞれの掛かりつけ医に月1回、受診支援をしている。透析を受けている利用者の場合は、家族の付き添いとしているが病院との連絡を密にとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族の希望を踏まえた話し合いを持ち、方針の共有をしている。体調変化時には更なる話し合いを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには十分注意している。言葉かけや対応はプライバシーに配慮されたものであり、常日ごろ、管理者、職員は意識するように心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の状態に応じて問いかけ、行きたい所、食べたい物等、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行ったり、食材の皮むき等、出来る範囲で共に準備、食事、後片づけをしながら、楽しく和やかな支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は毎日シャワー浴を行い、他の季節は希望や健康状態により、毎日入浴の方や一日おきの方がいて、楽しみながらの入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事、洗濯の分野でそれぞれ役割がはっきりしてきて、出来る方が行っている。利用者は季節の行事、餅つきや祭りをとて楽しみに参加している。職員は張り合いや喜びのある日々を過ごすための支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物や特別養護老人ホームの事務所へ一緒に行ったりしており、希望に沿った外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサー設置はしてあるが、鍵はかけていない。利用者は自由に出はいりをしており、職員は声かけや、見守りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回避難訓練を行っている。区長、消防団長が運営推進会議のメンバーであり協力が得られている。夜間想定も常日ごろ話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分摂取量は個別に応じ支援している。法人内の管理栄養士に献立のチェックをお願いしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地良く過ごす配慮がされており、広いベランダでも自由に過ごせるようになっており、中庭への出はiriもできる。常に見守りの必要な方が居間で生活されているが、他の利用者と共に過ごせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた生活用品が持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。